

日本脳炎ワクチンの説明書

不活化ワクチン
皮下注射

<p>日本脳炎とは</p>	<p>日本脳炎ウイルスの感染によっておこる中枢神経（脳や脊髄など）の病気です。ヒトからヒトへの感染はなく、ブタなどの動物の体内でウイルスが増殖した後、そのブタを刺したコガタアカイエカ（水田等に発生する蚊の一種）などがヒトを刺すことによって感染します。7～10日間の潜伏期間の後、高熱、頭痛、嘔吐、意識障害、けいれん等の中枢神経系障害（脳の障害）を生じます。大多数の方は無症状に終わりますが、脳炎を発症した場合、脳炎を発症した場合、20～40%が死亡に至る病気といわれています。</p>
<p>接種対象年齢・接種回数・間隔</p>	<p>【1期】 生後6ヵ月以上7歳6ヵ月未満（※標準的な接種年齢は3歳以上4歳未満）（初回接種）6日以上28日までの間隔をあけて2回。 （追加接種）初回（2回）終了後、6ヵ月以上（標準的にはおおむね1年以上）あけて1回。</p> <p>【2期】 9歳以上13歳未満に1回。</p>
<p>ワクチンの副反応</p>	<p>○ 注射部位の症状（赤み、硬結、腫れ、痛みなど）、発熱（37.5℃以上）などがみられます。 ○ 極めてまれに、ショック、アナフィラキシー、急性散在性脳脊髄炎（ADEM）、脳炎・脳症、けいれん、血小板減少性紫斑病等が報告されています。</p> <p>予防接種を受けたあと、副反応がおこった場合は医師の診察・治療を必ず受けてください。その後、東大阪市保健所までご連絡ください。</p>
<p>受けることができない人</p>	<p>○ 明らかに発熱している人（通常は37.5℃を超える場合） ○ 重い急性疾患にかかっている人 ○ このワクチンの成分によってアナフィラキシー（通常接種後30分以内に出現する呼吸困難や全身性のじんましんなどを伴う重いアレルギー反応）をおこしたことがある人 ○ その他、かかりつけの医師に予防接種を受けないほうがよいといわれた人</p>
<p>予防接種を受けるに際し、医師とよく相談しなければならない人</p>	<p>○ 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患、発育障害などの基礎疾患のある人 ○ 過去に予防接種を受けたとき、接種後2日以内に発熱、全身性発疹などのアレルギーを疑う症状がみられた人 ○ 過去にけいれん（ひきつけ）をおこしたことがある人 ○ 過去に免疫状態の異常を指摘されたことがある人、または近親者に先天性免疫不全症の方がいる人 ○ このワクチンに含まれる成分にアレルギーをおこすおそれのある人</p>
<p>ワクチン接種後の注意</p>	<p>○ 接種後30分間は、ショックやアナフィラキシーがおこることがありますので、医師とすぐ連絡がとれるようにしておきましょう。 ○ 接種後に高熱やけいれんなどの異常が出現した場合は、速やかに医師の診察を受けてください。 ○ 接種当日は過度な運動を控え、1週間は体調に注意しましょう。 ○ 接種部位は清潔に保ちましょう。接種当日の入浴は問題ありませんが、接種部位を強くこすことはやめましょう。 ○ 接種後、腫れが目立つときや機嫌が悪くなったときなどは医師にご相談ください。 ○ このワクチンと他のワクチンの同時接種を希望する場合は、医師にご相談ください。</p>